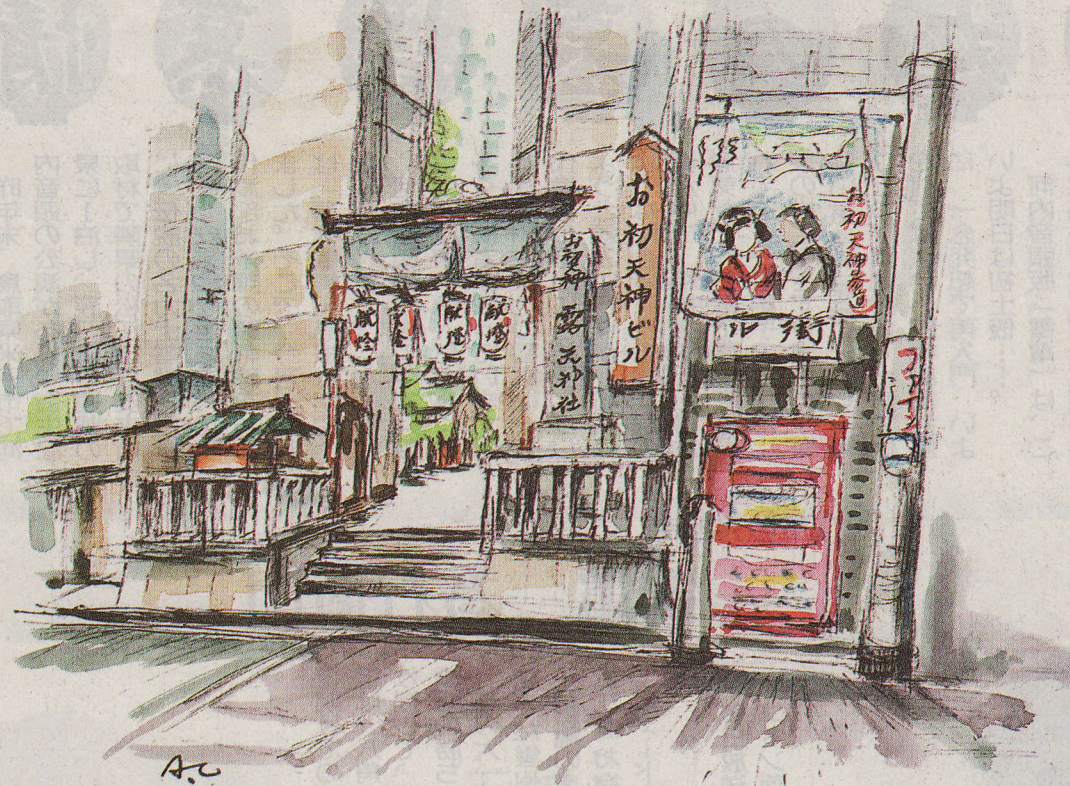


ちょっと探す必要のあ 阪急梅田か地下鉄東梅田 とが習慣になっている。本を購入する場合は、 の大型書店に立ち寄るこ 今日東梅田の書店経由



メモ
お初天神・露天神社 社史では、大阪湾に浮かぶ小島の一つであった現在の地に、「住吉須牟地曾根の神」を祭り、御新座されたと伝えられている。創建年代は定かではないが、850年前までさかのほることができるといふ。以降、徐々に陸つづきになるにつれ、島、洲、崎、と変遷を重ね、一族が移住して田畑を開いて曾根崎村が誕生。同神社はその鎮守の神となった。社名の起こりは諸説あるが、901年に菅公の参詣を受けた際、詠まれた御歌「露と散る涙に袖は朽ちにけり 都のことを思ひ出ずれば」によるともいわれている。

御堂筋の朝

で、朝のお初天神通りの商店街を歩いた。

朝といっても午前10時過ぎの時間である。まだ開店しているお店も、人通りも少なかつた。それだけにゆっくり歩けた。自然に目の上の方に移り、普段気付いていなかった垂れ幕が目に入った。お初天神参道 恋の合掌かなと邪推してみた。お初天神と徳兵衛 恋の街 お初天神で永久の愛を誓うのキヤッチフレーズで、お二人のイラスト入りであった。いろいろなアレンジされた垂れ幕に誘われて商店街出口近くに進むと、お初天神・露天神社の看板と幟が目に入り、出口にあたる裏門から社の一帯が垣間見えた。境内には、菅原道真公を祭った露天神社が、クスの巨木を背に鎮座していた。祭壇前には、手を合わせる中年夫婦。お子様の

恋の成就見守るお初・徳兵衛

受験か成績向上を祈って常だったという。「そのため、人々の集まる露天神社もお初天神と通称されるようになった」と、宮司さんが説明してくれた。

参道や門前町のお店は、参詣する人々から福のおすそ分けをいただいで繁盛してきたが、現在は店をたたむところもあると聞く。梅田・曾根崎の総鎮守という原点に戻って、神社とお店が一緒になり、新しいイベントのある門前町をつくってほしいものである。

